

佳作

前を向いて

神奈川県 川崎市立東門前小学校六年 加藤 佑妃

みなさんは今、会いたい人、いますか？きっとさまざまな思い出が心のすみにしまわれているのではないのでしょうか？そして私にも会いたい人がいます。その人は私を元気づけてくれた友達です。しかし、今その友達がどこにいるのか分かりません。ずっと続くと思っていたのに……とつぜんいなくなっていました。この作文はその友達に向けて書きました。読んでくれるはずもないし、私がこんな思いでいること、絶対に知りません。だからなのは分からないけれど、この想いをここに書きたくになりました。

出会ったのは一年生の時。そのころ、習い事でダンスをはじめました。その友達とはたまたま同じくらいにはじめ、年れいも一緒だったので、すぐに仲良くなれました。明るくて、おっちょこちょい。人見知りの私でも仲良くなれたということは、人をひ

きつけるみ力があったのかもしれない。

学校がどんなにいやでもダンスだけは楽しかったことを覚えています。なぜならあの子に会えるから。ほとんどその理由でダンスに通っていました。初めてちゃんとした友達ができたことにたくさん幸せをいただきました。

しかし、その子は突然ダンスに来なくなっていました。何も言わずに。何ヶ月経ってもずーっとやめたのかどうかも分かりませんでした。でも一つだけ分かること、それは来なくなった理由です。何かというと、ダンスの先生に怒られっぱなしだったことです。その友達は、泣いていました。見ているこっちも苦しくなりました。あのたくさん笑っている笑顔と幸せが一気ににはぎとられてしまった私は、悲しみに身を包んでいました。

あれから二年経った今でも忘れられません。今思えば、あの子が来なくなった理由は、ダンスの先生だけではなく、私にもあったんだと後悔しています。友達が悲しんでいるのに、言葉をかけることができませんでした。私がつとはげましていけば、大切なあの太陽のように光かがやく笑顔は、失わなかつ

たのに。私は当たり前のようにパワーにあふれるエネルギーをもらっていたのに!!

まるで天使がすっと現れ、透明なその心でつくりだされたきらきらしたものが、自然と私の小さな黒い穴を満たし続け、なんの前触れもなく、なんの言葉もなく、そして最後には元気が見れなくなり、いなくなってしまうました。現実的には、たくさん一緒にいたはずなのにあの時間がとても短く感じます。

もう、こういうことをしたくないです。友達を気づかないうちに苦しめたくないです。だから今、私にできること……。それは過去のことにとどまっらないで、前を向き、今できることをすること。そして、目の前にいるかけがえのない友達を大切に。あの友達にちかかって絶対そうすると心に決めました。